

平成25年度第2回情報教育研究委員会情報専門教育分科会議事概要

I. 日 時：平成26年1月16日（木）13：00～17：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

III. 出席者：大原主査、須田委員、松浦委員、渡辺委員、中村委員、高田委員、斎藤トバ^{トバ}イ^イ（事務局）井端事務局長、森下主幹、野本

IV. 議事内容

1. アンケートの意見から学士力の考察・教育改善モデルの見直しについて

教育改善モデルのアンケート意見を踏まえた見直し案が提示されて検討の結果、以下のように変更することになった。

(1) 共通の内容

- ・ システムとしている記述に対して使い分けの意見があったが、「情報通信システム」に統一することにした。
- ・ 情報デザインの意図が情報通信系とコンテンツ・サービス系でそれぞれことなり、範囲の指摘もあったことから、「情報デザイン」の言葉は説明部分では使用しないことにした。
- ・ 一般と専門レベルとしていたが、わかりにくい指摘のため、「基礎レベル」、「応用レベル」に変更することにした。
- ・ 価値の使い分けの指摘があり、一部は「社会的価値」に置き換えを行った。

(2) 情報通信系教育の内容

- ・ 学士力の考察の前書き部分では、重複した表現の整理をした。また、基礎レベルは関連づけて活用できることにして、応用レベルは専門知識と技能の統合を目指す表現に変更した。
- ・ 到達目標2の応用レベルの到達度①では、システムの表現を「情報通信技術を応用した簡単な情報通信システム」に変更した。
- ・ 到達目標3はシステムを「情報通信システム」に変更した。応用レベルの到達度①では、簡単なシステムを「情報通信技術を応用した簡単な情報通信システム」に変更し、到達度②のシステムを、「情報通信技術を応用した情報通信システム」に変更した。

(3) 情報コンテンツ・サービス系

- ・ 学士力の考察の前書き部分では、コンテンツ・サービスの例示として、「情報流通の仕組みを含むWebデザイン、データベース、バーチャルリアリティ、ゲームなどがある。情報そのものに価値を持たせたり、社会生活にとって役に立つサービスの提供などがあげられ、」に表現を変更した。
- ・ 「情報コンテンツ・サービス系教育では、（一部省略）人々の生活や社会に新たな価値や変化をもたらす」の部分はその上の部分で同様に記述されており教育を意図しているため、「分野横断的な教育」に変更した。
- ・ また、情報デザインの記述をここに追加することを検討したが、視点がデザインに偏ってしまうことを危惧して特に記述しないことにした。
- ・ 基礎レベルは「基礎的な知識・技能・態度を修得し、イノベーションを意識して情報コンテンツ・サービスの構想に取り組むこと」にし、応用レベルは「情報コンテンツを各種メディアの特性を利用して創作し、グローバルなビジネスモデルを展開できること」に変更した。
- ・ 到達目標3は価値の文字があったため、「要求に対応した社会的価値のある情報コンテンツ・サービスの企画・制作ができる」に変更することにした。

2. 次年度の取り組みについて

- ・ 具体的な課題を呼びかけてはどうか。アクティブラーニングにつながることや具体的な事例など、企業を含めて検討してはどうか。例えば総務省のプラットフォームの遠隔教育システム（enPeL）を活用するなどのようなこと。
- ・ 改善モデルを発展させる取り組みで、仕組みの図を実行レベルに落とすこと、話題としてどこかの大学で実現できないか。授業の仕組みの理解促進のために産学連携事業に呼びかけて協力をすすめることなど。

V. 今後のスケジュール

- ・ 次回の分科会は次年度にネットで開催日程を調整することにした。